

執筆者紹介 (①所属, ②業績)

宮坂 直史 (みやさか なおふみ) 【編者】第1・4・6・11章 (共著), 付録

- ①防衛大学校人文社会科学群国際関係学科教授
- ②『国際テロリズム論』 芦書房, 2002年。
『日本はテロを防げるか』 筑摩書房, 2004年。
『テロリズム』 (翻訳) 岩波書店, 2003年。

福田 充 (ふくだ みつる) 第2章

- ①日本大学危機管理学部教授・日本大学大学院危機管理学研究科教授
- ②『テロとインテリジェンス——覇権国家アメリカのジレンマ』 慶應義塾大学出版会, 2010年。
『政治と暴力——安倍晋三銃撃事件とテロリズム』 PHP 研究所, 2022年。
『メディアとテロリズム』 新潮社, 2009年。

谷田 悠介 (たにだ ゆうすけ) 第3章

- ①陸上自衛隊3等陸佐
- ②「ヒューマノイドロボット用H溝型床反力センサの設計開発」 東北大学大学院工学研究科・工学修士論文, 2004年。
「ローン・アクター・テロリズムにおけるマニフェストと目的合理性」 大学改革支援・学位授与機構・安全保障学修士論文, 2022年。

佐々木葉月 (ささき はづき) 第5章

- ①金沢大学国際基幹教育院専任講師
- ②「EUにおけるテロ予防のローカル・ガバナンスの可能性と課題——オランダの取り組みを事例として」 中内政貴・田中慎吾編『外交・安全保障政策から読む欧州統合』 大阪大学出版会, 2023年。
“Security Governance with Human Rights Non-Compliant Actors: Who is Responsible for Metagovernance Failure?” Radomir Compel and Rosalie Arcala Hall eds., *Security and Safety in the Era of Global Risks*, Routledge, 2021.
「複合規範の提示による規範の再活性化戦略——国際テロ予防規範の競合と変容」 『立命館大学人文科学研究紀要』 115, 2018年。

武田 幸男（たけだ ゆきお） 第7・10章

- ①航空自衛隊幹部学校教育部教育企画グループ（戦略）
- ②「テロ対策における懐柔策——現在の到達点と今後の地平」『安全保障戦略研究』3（2），2023年。
「テロ対策に適切な経費——予算の算定方法に関する考察」『朝雲新聞』「防研セミナー 時代を読み解く」シリーズ，2022年6月30日掲載。
「テロの鎮静化——強硬策と懐柔策」大学改革支援・学位授与機構博士論文，2017年。

河本 志朗（かわもと しろろう） 第8章

- ①日本大学危機管理学部非常勤講師
- ②「国際テロの現状とわが国に対する脅威」『火災』71（2），2021年。
「警察における国民保護措置」『救急医学』42（1），2018年。
「大規模イベントにおけるCBRNテロ対策の取組と課題」『国際安全保障』44（2），2016年。

奥村 徹（おくむら てつ） 第9章

- ①法務省矯正局医務部医療課法務技官・矯正医官，（一社）公共ネットワーク機構理事，国際警察協会日本支部会員
- ②“Report on 640 Victims of the Tokyo Subway Sarin Attack,” (Co-authored) *Annals of Emergency Medicine*, 28（2），1996.
“The wide-area medical transportation following the Great East Japan Earthquake: the Japanese government’s control and coordination,” *American Journal of Disaster Medicine*, 8（3），2013.
“Part 2 Tokyo Sarin Attack: Acute Health Effects: Sarin Attacks in Japan : Acute and Delayed Health Effects in Survivors,” (Co-authored) Ramesh C. Gupta, *Handbook of Toxicology of Chemical Warfare Agents 3rd ed.*, Elsevier, 2020.

松原 大典（まつばら だいすけ） 第11章（共著）

- ①防衛大学校総合安全保障研究科後期課程
- ②「テロリズムの原因の一考察」『防衛大学校紀要 社会科学分冊』121・122，2021年